



## 紙つぶて

元茨城高専の松沢孝男さんは二〇〇六年からほぼ毎年、学生や卒業生と富士山に登り、自然放射線の測定などをしています。

現在は航空機内の宇宙線被ばく研究に取り組み放射線医学総合研究所グループの一員として、富士山測候所で宇宙線観測を行っています。自然界には元来、宇宙からの放射線やそれによって生成される放射性物質が存在します。宇宙線は空気による吸収の少ない高山ほど強く、航空機内ではさらに強くなります。日本で最も空に近い富士山測候所は格好の観測塔なので

す。

このグループの保田浩志さんらは、福島原発事故後の一年七月初めに吉田・須走登山道で放射線を測定しました。空間線量率が毎時〇・〇三〜〇・〇五Bq/lの範囲で

## 富士山の放射能測定

あったこと、六合目以下では微量ながら放射性セシウムからのガンマ線が検出されたことが報告されています。

この結果と、早稲田大の大河内博教授グループが標高三三〇〇mの太郎坊で連続観測していた降水などのデータを基に、東京学芸大の鴨川仁助教が福島原発由来の放射性物質の通過高度を推定しています。放射能汚染の垂直分布が観測できた貴重なデータで、富士山測候所を観測地点として維持できたことの成果の一つです。

松沢さんと以前に山に登った十人以上の学生たちの中には大学や大学院に進学している人もおり、いつかまた若い力として

富士山研究に帰ってきてくれることを期待しています。



す。

（土器屋 由紀子＝富士山測候所を活用する会理事）